



## 梶田会長の急逝を悼む



R4. 5.13 総会

■去る 11 月 1 日、20 年間に亘り、当中京山岳会を牽引してこられた梶田明会長が逝去されました。昭和初年頃に端を発する当会は、戦中戦後を含め、幾度かの盛衰を経て今日に至っています。

■梶田さんは、戦後の第 1 期公募会員です。人材が揃い第 2 期、第 3 期黄金時代と言われる会の隆盛期もありました。豪快な人柄で会員の信頼も厚く、昭和 40 年頃は、新人の指導担当として正月の新穂高、凍てつく冬テント、深雪のラッセルと雪にまみれた活躍も今は懐かしい思い出です。

■平成 14 年会長に選出、以来 20 年間に亘り会の運営をリードされました。平成 10 年沖会員等とともにインドヒマラヤへ、17 年には厳冬期チベット縦断など、また 19 年には 75 周年記念事業として「シルクロード・カラコルムの山旅」を実施。21 年には、50 年史に続く、創立 75 周年記念誌「続・山と谷へ」の編集・出版を主導し発行されました。

■県山岳連盟においても監事として尽力、これら数々の功績が認められ、平成 23 年日本山岳協会から表彰、更に本年 4 月には既報の瑞宝双光章受章の栄に浴されました。

■近年の自宅療養生活が続く中でも、まだまだ会の柱として会を導き、指導をいただけるものと思っていました。そんな中あまりにも突然の訃報にただただ驚くばかりでした。今年 8 月に逝去された奥様の後を追うように旅立たれました。

■中京山岳会も新たな顔ぶれが揃い再び賑やかになってきました。伝統の灯は私たちが守ります。どうか安らかに眠りください。

ここに改めて哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。 合掌 総務：織田



月例山行

養老三山 11月27日

養老三山：三方山 720m、小倉山 841m、養老三山 859m メンバー：水野、織田、市橋、伴野、柴橋、水谷、中村、畑中、平岡（会員外）

▲名城公園 7：30 集合し車 3 台に分乗し養老三山公園へ向かう。紅葉時期にて渋滞を心配するもすん

なり到着。養老公園駐車場を 8：40 出発、養老の滝 9：10 着、まだ観光客はまばら。記念写真を撮り登山道へ。川を渡渉してすぐにつづら折りの急登が続く。息が上がる。三方山を経て小倉山 11：00 着。眺望を堪能



しながら昼食とする。養老三山 11：50 は眺望も効かず何もない為早々に下山する。近場で手頃

な山にて老若男女問わず賑わっており、晴天の下 9 名の大所帯で爽やかな山行が楽しめた。

記録：水野

⑥



インド・ヒマラヤ

ラダック便り・沖

東海支部登山隊 総隊長沖 允人

【登山活動開始】

▲ 6月30日 キャンプ地を出発し、Nyimaling Chu 上流Kang Yisay Mts.(カン・ユ・セイ山群)の南側下部にBC(約5278m)を設営した。

▲ 7月 3日 体調不良の印藤寿浩に同行して印藤義子と星一男隊長が馬と車を持ち継ぎ、急遽レーンに下山した。その後の登山指揮は登攀隊長の栗木洋明が行った。

▲ 7月 5日 Sha Idor Ri (シャドール・リ、5942m) ※1 初登頂

▲ 7月 9日 Dzo Jongo (ドゾ・ジョンゴ、6211m) 東峰第 2 登を果たした。栗木洋明・岩瀬幹生・鍛次真由美による登頂記録は、別稿参照。

※2 標高はOlizane Map による一以下次号